CAMPUS NEWS
RIKKYO NIIZA

No.84
— December 2021 —

特集 _01

ICT 教育

- SPECIAL INTERVIEW -
教員インタビュー

- SPECIAL REPORT -
インタラクティブな授業展開が可能に
［中 1 英語授業］

- SPECIAL INTERVIEW -
生徒インタビュー
［学びを深化させるタブレット活用］

- COLUMN -
部活動報告
生徒インタビュー

特集 _02

リーダーシップ教育

- SPECIAL REPORT -
リズムを使ったリーダーシップ学習

- 自由選択科目❶ -
「リーダーシップ入門　自己＆他者理解」
教員・生徒インタビュー

- 自由選択科目❷ -
「豊かな人生を切り開くリーダーシップ」
教員・生徒インタビュー

立教新座中学校・高等学校

これからの時代に合わせた学び

ICT 教育

ICTを学びの道具として選択し、活用する

2019年12月に文部科学省が打ち出した「GIGAスクール構想」により、生徒一人ひとりが端末をもち、それを活用できるよう通信環境を整備する動きが高まっています。そこに2020年の新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言、学校の一斉休校。「GIGAスクール構想」の早期実現が求められるようになりました。小・中・高でのICTを活用した教育に目が向けられる中、立教新座でも2020年度からICTを導入した教育環境が進化しています。今後、生徒の学びはどのように変わっていくのでしょうか。ICT担当・理科教諭島野誠大先生に聞きました。

ICT担当／理科教諭
島野 誠大
Masahiro Shimano

ICTは学びを深めるための有効なツール

ICTは文房具の一つ。使い勝手がよく、便利なアイテムとしてまずは使ってみてほしいと思っています。ICTが便利な状況では積極的に使い、アナログのやり方がいいときはそちらを使う。例えば、理科の授業で、写真や動画で実験の様子を記録し、大型のスクリーンで共有するときにはタブレットなどICT機器が有効です。これまで絵を描いていたものを写真や動画にすれば、リアルな実験記録になるうえに、余った時間を考察にあてることができるでしょう。一方、なぜその結果になったのかを深く考察するときには、お互いの考えを模造紙などに書き出して俯瞰することも一つの手段です。紙に書き出すのは、一見すると時間と手間がかかるようにみえますが、集中して物事を考えたり、人の意見を参考に自己と対話したりするスキルを身につけるには非常に効果的です。議論が活性化し、より深い考察を進めることができます。このように、ICT一辺倒になるのではなく、ICTを導入することで生まれるメリットを活かしたいと考えています。

本校のICT教育は、タブレットなどICT機器を使いこなすことが目的ではありません。これらはあくまで学びを深めるために利用するツールの一つです。学ぶための選択肢の一つとして、生徒にも教員にも活用してほしいと考えています。

SPECIAL INTERVIEW 教員インタビュー

全教室にフリーWi-Fi、AppleTVと大画面プロジェクターが完備

2021年度から、全教室にフリーWi-Fi、Apple TVと大画面プロジェクターが完備されました。これにより、教員の授業の幅が広がりましたし、中2、中3では、生徒が持参した端末を用いたグループワークや発表もできるようになりました。

さらに、2学期からは教員と中学1年生全員がiPadを所有。生徒はiPadを自分の使いやすい文房具のように最適化していくことがスタートしました。知りたいときに調べることができるなど、ICTの特性を活かしてほしいと願っています。

また、フリーWi-Fiが入ったことは高校生にとってもプラスに働いています。卒業研究論文を書く時に効率よく調べられますし、添削もクラウド上でやりとりをすることもできるようになりました。

今後もICTの効果的な活用を研究

設備が整ったとはいえ、学ぶ環境のすべてがICTにとってかわることはありません。必要なときに効果的に使えるよう、ICTを活用していきたいと考えています。教員もまだ使い方を習得中。今年度からGoogle Classroom等のICTについて、非常勤講師も含めた全教職員対象に研修会を定期的に実施しています。新しい機器やアプリに関すること、また、オンラインと対面授業を併用した場合のことなど、どうすればいい授業になるのかをディスカッションしながら模索しているところです。お互いの授業について見学や情報共有することでよりよい授業ができるように工夫していきます。

インタラクティブな授業展開が可能に　－ 中1英語授業 －

2学期から中学1年生全員にiPadが配付され、
授業でも積極的に使用しはじめました。
今回は、中学1年生の英語授業を一例として紹介します。

授業が始まると、スクリーンに次々と映し出される英単語。生徒たちは、表示された単語を発音し、声に出して意味を言い当てていき、10分ほどで60単語を覚えました。これまで紙の単語テストを行っていた時間は、iPadとプロジェクターの導入で声に出してアウトプットする時間に。また、1枚ずつ配布されていたプリント類はデータ共有となり、板書していたポイントの整理は共有されたPDFに生徒自身がApple Pencilで書き込むようになりました。

続いては、前の時間に生徒が提出した英作文に、教員が添削したデータをそれぞれに返信。生徒たちは、それを参考にしながら、わからないところはインターネットで検索をするなどして英文を仕上げていきます。

授業の最後はペアになり、お互いの英作文を読んでいるところをiPadで撮影。スクリーンで共有された他のペアの動画もみて、「わかりやすい英文だね」「もう少しジェスチャーがあるといいな」など、よい点と改善点を言いあいました。

教科書に出てくる英文や単語を覚えるだけではなく、自分の伝えたいことを英語でどう表現すればいいかを考える、わからないことは授業時間中に調べる、他の生徒の成果物をみて感じたことを伝える、こうした自発的な学習が英語や学びへの興味につながり、実際に英語の力がついていくことを生徒自身も実感していることでしょう。

教員側も大きな変化が見られます。授業中は、手元のiPadで操作をすればよいので黒板の前にいる必要がありません。生徒の近くを歩きながら話をすることもできますし、その合間にも生徒のiPad画面をのぞき込み、手が止まっていたら声をかけることもできます。また、生徒の解答はロイロノートを使うことでその場での共有が可能に。これまでは、解答用紙を回収、教員がそれをまとめてプリントを作成し次の授業で生徒に共有していました。それが瞬時にできるので、iPadの活用が時間短縮、作業の簡略化を実現したことは間違いありません。

iPadが導入されたことで、英語をアウトプットする時間が増えました。英語が自分の考えを伝えるツールとして身につく授業を目指しています。

先生の添削を見ながら英作文を修正。「この言い方、正しいかな」とiPadをのぞき込んで意見交換したり、「表現がわからないから調べてみよう」とインターネット検索をしたりして英文を仕上げていきます。

ペア同士で学習の成果を発表しあうスピーチの練習。生徒がiPadで収録した動画はスクリーンでも教室内に共有され、良い点や課題を振り返り、積極的に学び合うようすが見られました。

その場で共有された問題にApple Pencilを使って解答を入力。生徒それぞれの解答はすぐに教員のiPadに集約。スクリーンに映し出され、正解や間違ったポイントなどが教員から解説されます。

COLUMN

2021年度現在、授業では、中学1年生は全員がiPadを使用、中2、中3はグループワークの際にPCやタブレットを持参、高校生はスマートフォンも含めて個人が所有するデバイスを自由に使用。発表資料を制作するほか、動画や写真を撮影したり、調べものをしたりして活用しています。

中3グループワークで発表資料作成

高2物理基礎。実験のようすを動画撮影

高3選択授業。SDGsについて調べる

調べて考える習慣がつき興味が広がりました

中学1年生
山本 慈瑛
Jiei Yamamoto

今までは、難しい問題があると、先生や友達に聞いたり、長い時間考えこんでしまったりしていました。でもiPadが手元にあれば、授業中、わからないときにいつでも調べられるので、どんどん勉強がはかどります。それを続けているうちに、いろいろなことに興味が広がり、もっと知りたいと思うように。家でも学校と同じように、調べて考えるのが習慣になっています。調べると頭に残るので、間違いも少なくなりました。2学期の成績が1学期よりもっとよくなるようにがんばっています。

今年度のオンライン上での文化祭、「S.P.O.F.」で、ぼくのクラスでは、一人ひとりが得意なことを動画で紹介しました。ぼくはバレーボール部なので、バレーをするところを親にiPadで撮影してもらい、ロイロノートで提出しました。クラスのみんながそれぞれ個性あふれる動画を作成していて、見ていてとてもおもしろかったです。

課題の管理が簡単になり効率的に学べるように

中学1年生
金子 皓星
Kosei Kaneko

iPadを使うようになって、数学の数量の授業ではiPadに課題が配信されるようになりました。Apple Pencilで画面上の課題に直接書き込み、先生に提出して確認してもらいます。数学は解き方が何通りもあるので、先生が前のスライドに他の人の解き方を映してくれると、「こんな解き方もあるのか」と勉強になります。

テスト勉強もより深くできるようになりました。プリントは1度書き込んでしまうと、解きなおしが難しいのですが、iPadでは課題自体に書き込まずに済み、何度でも必要なデータを取り出して解きなおしができます。まっさらな状態で何度も問題を解けるので、苦手なところを納得いくまで復習できます。

また、課題データはすべてiPadの中。テスト前に大量のプリントをひっくり返して探す必要がありません。管理の仕方が今までよりも簡単になり、時間短縮ができるようになったぶん、テスト対策に時間を回せます。これからは、得意な数量の成績が伸びるようにiPadを活用していきたいです。

COLUMN

部活動報告（2021年7月～11月）

中学

テニス部 ●学校総合体育大会埼玉県大会 男子団体優勝

高校

サイクル部 ●インターハイ ポイントレース第11位／4km速度競走決勝進出／チーム・パーシュート第12位
サッカー部 ●全国高校サッカー選手権大会 埼玉県大会ベスト4
テニス部 ●埼玉県高等学校新人大会テニス競技 男子ダブルス第2位／第4位
馬術部 ●全日本高等学校馬術競技大会 ベスト12
フェンシング部* ●インターハイ 男子団体優勝／個人戦男子フルーレ第3位／個人戦男子エペ第3位
野球部 ●全国高等学校野球選手権埼玉大会 第5位
陸上競技部 ●インターハイ 4×100mリレー準決勝進出
鉄道研究会 ●全国高等学校鉄道模型コンテスト2021 理事長特別賞／ベストリアル情景賞
吹奏楽部 ●東日本学校吹奏楽大会 金賞●日本管楽合奏コンテスト全国大会 優秀賞

＊表紙：高校フェンシング部。創部初のインターハイ優勝を記念して撮影しました。

インターハイ 男子200m／4×100mリレー／4×400mリレーに出場

陸上競技部　高校2年
塩味 奏来
Sora Shiomi

コロナ禍に於いて学校での練習ができない時は、放課後や休日に競技場や公園で走ったり、筋トレしたり、リモートで顧問の先生やチームメートとも相談しながら自分で練習メニューを考え取り組んでいました。休校が明けても以前より圧倒的に練習時間が短い中で練習効率を上げるために、一つひとつの動きに集中することを心がけました。どのような練習をすれば良いのか、自分に必要なことは何かをじっくり考えることができ、陸上と向き合う時間が増えたと思います。インターハイでは全国トップの選手とのレベルの違いを思い知らされました。この経験を糧に来年は決勝の舞台を目指して頑張ります。

東日本学校吹奏楽大会 金賞

吹奏楽部　高校3年
遠藤 洋平
Yohei Endo

皆の日々の練習の積み重ねが実を結び、念願だった東日本大会への初出場がかない、金賞を受賞することができて嬉しいです。新型コロナウイルス感染予防対策のために練習量が少ない中、部員同士で練習メニューや目的を明確にして共有し、効率化を図っていきました。1、2年生は初めての遠征に緊張していましたが、現地の練習にも徐々に慣れ、また本番前に「がんばろう」「楽しもう」と一人ずつに声をかけたことで、皆笑顔で舞台に上がり演奏に集中できたと思います。本当にたくさんの方々の支えがあってステージに立てたことに感謝しています。

「共に生きる」力を育てる

リーダーシップ教育

リーダーシップ教育の一環として、高校3年生の自由選択科目でリーダーシップに関する2講座を開講しています。担当は立教大学等でリーダーシップ教育に携わる今西正和先生と山原すすむ先生。2021年10月、この2講座合同で音楽家・プロパーカッショニストの橋田〝ペッカー〟正人さんをヘッドトレーナーにお迎えし、「リズムを使ったリーダーシップ学習」を実施しました。

リズムを使ったリーダーシップ学習

SPECIAL REPORT

リズムやダンスなど、体感覚からリーダーシップを学ぶプログラム「トレーニングビート®」。橋田〝ペッカー〟正人さんは、日本におけるパーカッション界の草分け的存在であり、このプログラムの第一人者です。

火曜日の 1・2 限、セントポールズ・スタジオに集まった生徒たちは、「リーダーシップとリズムがどう関係するのだろう」と不思議なようす。そこにペッカーさんの「さあ、生きた拍手をしよう！」の声が響きます。生きた拍手とは、しっかりと相手の目を見て、尊重の気持ちを込めてする拍手のこと。心を一つにしやすいので、「チームビルディング」に有効だそう。

次に、4 つのグループに分かれ、それぞれに違う手拍子のリズムが割り当てられます。上手にできたらお互いに拍手を。最初は戸惑っていた生徒たちでしたが、目を合わせて笑ったり、拍手を送りあったりするうちに、マスク越しでもわかるほど笑顔が広がり、次第にグループがまとまっていきます。

続いては「転勤」を想定してグループ替え。前にいたグループのリズムを教えあいます。これは「状況が変わっても機能するグループづくり」の練習です。ここでペッカーさんのコンガと、山原先生のピアノも加わり、スタジオは一気に楽しい雰囲気に。新しいグループでもすぐに協力し息をあわせ、全員の手拍子が響き渡ります。

最後に「リーダーとフォロワーの関係」を学びました。コンガとピアノに合わせてまずリーダーが動き、それをフォロワーがまねします。「わかりやすく伝えることが大切。そういうリーダーにフォロワーはついてくる」とペッカーさんは話します。

生徒からは、「リズムとリーダーシップは、お互いにサポートしあうことでいいチームができるところが同じだと思った」、「メンバーのいいところを引き出せるようなリーダーになりたい」などの感想が。リズムと一緒に、「共に生きる」新たなリーダーシップ像が刻み込まれたようです。

リズムでリーダーシップを学ぶ特別授業

一体感やつながりの大切さを心に刻み込む

リーダーとフォロワーの役割を体感で理解

自由選択科目① リーダーシップ入門　自己＆他者理解

講座担当
今西 正和
Masakazu Imanishi

自分らしいリーダーシップとは何か

この授業の目的は、立教新座が考えるリーダーシップ、「仲間と目標を共有しながら自ら率先して行動する力」を身につけること。そのために、自分と相手をより深く理解し、自分らしいリーダーシップとは何かを考えます。

1学期にはPBL（問題解決型学習）を実施。立教大学在学生を招き、学部で学んでいることや、学生生活について講演してもらいました。生徒は4班に分かれ、自分や他の生徒が学部選択をする際に必要な情報を収集し、パワーポイントにまとめ、所属するクラスのみんなの前で発表しました。仲間と協力しながら準備を進めることで「うまくできて自信がついた」と、成長していく姿は頼もしいですね。

生徒には多様な価値観に触れてほしいので、立教新座の卒業生、外部受験生、留学経験者など、さまざまなバックグラウンドをもつ大学生に来てもらいました。リアクションペーパーで「学部選択の視野が広がった」、「大学生活がイメージできて、勉強へのモチベーションが上がった」など、多くの生徒が前向きな感想を持てたのは大きな収穫です。

STUDENT'S VOICE

高校3年生　吉田 峻　Shun Yoshida

1学期のPBL授業では、「立教大学の学部選択において、必要な情報を収集して、発表する」という課題に6人一組で取り組みました。私は、原稿作成を担当。聞く人が知りたい情報は何かをメンバーと議論するうちに、きちんと話を聞くことの大切さに気づきました。相手に向き合いしっかりと耳を傾けることで、一人では考えつかなかったアイデアが生まれ、資料の質も高まったと思います。プレゼンの前日はチームのみんなでリハーサル。人前で話すのは苦手でしたが、信頼感が深まったメンバーと練習を重ねるうちに意識が変わってきました。結果的にチーム賞をいただけたことが大きな自信になり、今では他の授業でも積極的に発言しています。

他のチームの発表を聞いて、今まで考えていなかった学部へも興味がわいてきました。これを機に、さらに視野を広げて将来についても考えていきたいです。

自由選択科目② 豊かな人生を切り開くリーダーシップ

講座担当
山原 すすむ
Susumu Yamahara

一人ひとりの価値観を大切に

「豊かな人生を送りたい」とはだれもが願うことです。この授業では、さまざまなワークショップや対話などの「経験学習」を通して、「全員が発揮できるリーダーシップ」を学びます。

「自分らしさ」や「つながり」「貢献」など、豊かな人生の要素は人それぞれ。自分自身にとって大切な価値観に気づくと共に、人の価値観を尊重することで相手の人生の豊かさにもつながります。そのために必要な「自己理解」と「他者理解」を中心に学びました。さらに、「目標共有」「率先垂範」「相互支援」といったリーダーシップの3要素を実践することで、1人では成し得ないこともチーム全体で実現できることが体感してもらえたと思います。

グループワークでは、全員が自分なりのリーダーシップを発揮できるようになったのを感じています。これからも自分らしい価値判断を持ち、豊かな人生を切り開いていってくれることを期待しています。

STUDENT'S VOICE

高校3年生　荒井 幹太　Kanta Arai

2学期には「コンビニエンスストアのインターンとしてSDGs問題に向き合う」という課題に4人一組で取り組みました。僕はアイデアを出すのが得意なので、率先してどんどんアイデアを出すことでリーダーシップを発揮しました。さらに他のメンバーも遠慮なく、鋭い視点でいろいろな意見を投げかけてくれたおかげで、最終的には実際に企業に提案できるレベルにまで案を高めていくことができたと思います。みんなが得意なことを生かしてよいチームをつくり、協力しあってよい結果を生み出すという経験は、社会に出てからも大いに役に立つと思います。これからも、一人ひとりがリーダーシップを発揮できる方法について考えながら学んでいきたいです。

＜公式 Web サイト・SNS について＞

本誌の内容は、本校 Web サイトや SNS でもご覧いただけます。また、Web サイトや SNS では、本校での出来事など、日々の学校生活の様子が垣間見られるような情報や写真を発信しています。ぜひ、ご覧ください。

※在校生への緊急時のお知らせは「立教新座配信メール」で確認してください。

CAMPUS NEWS
RIKKYO NIIZA
キャンパスニュース 立教新座

2021 年 12 月 20 日発行　第 84 号
発行／立教新座中学校・高等学校　教務・入試広報課
〒352-8523　埼玉県新座市北野 1-2-25
TEL.048-471-6648 [入試窓口]
https://niiza.rikkyo.ac.jp/

2021年9月～11月取材。取材・制作等に際しては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、十分な配慮を行っています。